

劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

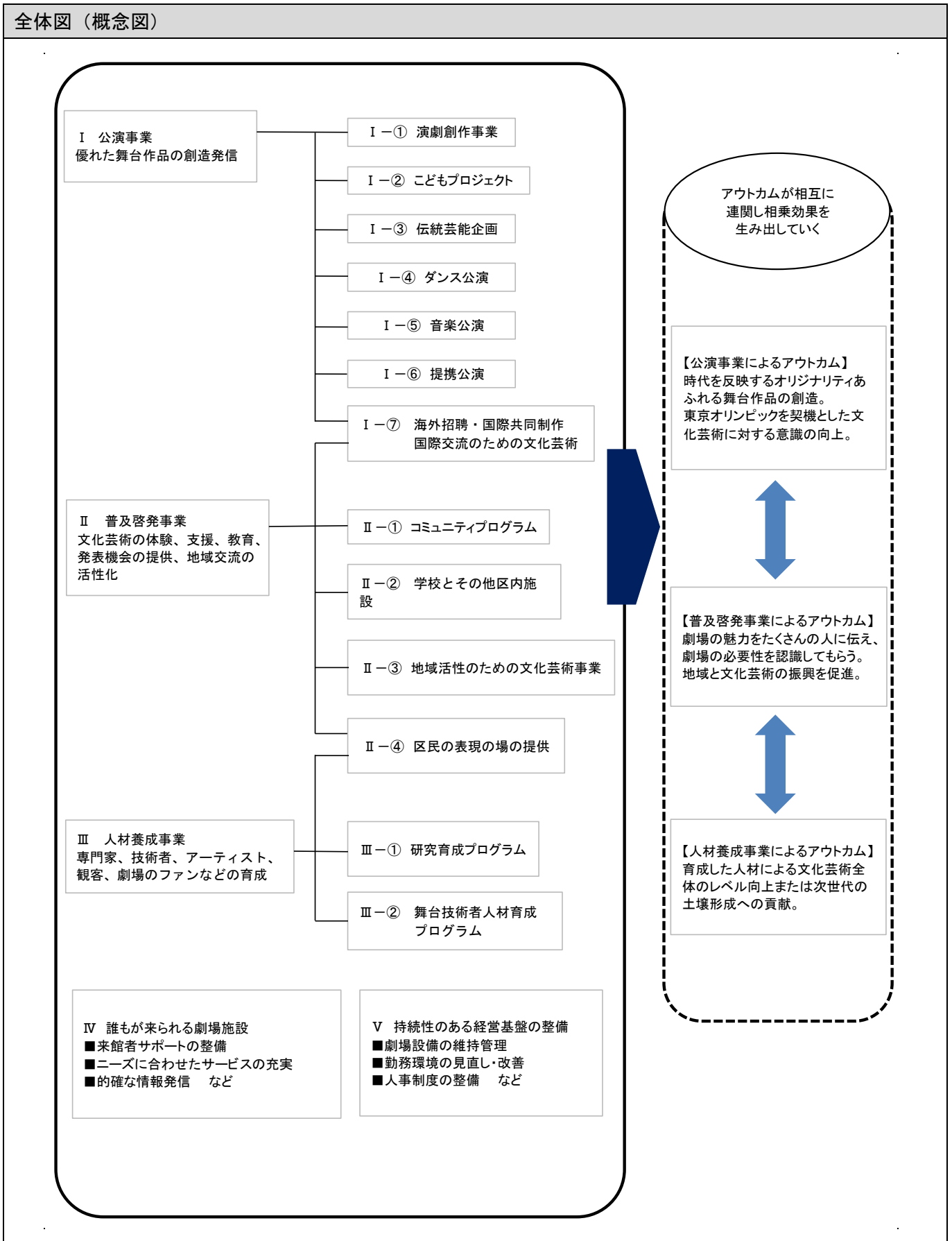
(平成30・31年度 2か年分)

団 体 名	公益財団法人せたがや文化財団
施 設 名	世田谷文化生活情報センター (世田谷パブリックシアター)
助 成 対 象 活 動 名	世田谷パブリックシアター 劇場・地域の文化芸術振興事業
助 成 期 間	3 (年間)
内 定 額	平成30年度 57,613 平成31年度 54,177 (千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



(2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	フリーステージ	2019年4月28日、29日 5月4日、6日	出演:世田谷区民を中心とした 約64団体	目標値	2,000
		世田谷パブリックシアター ・シアタートラム		実績値	2,400
2	小山ゆうな演出作品 『チック』	2019年7月13日～28日	出演:柄本時生、篠山輝信、 土井ケイト、大鷹明良、那須佐代子	目標値	2,560
		シアタートラム		実績値	2,902
3	せたがやこどもプロジェクト コンドルズ 『Don't Stop Me Now』	2019年8月22日～25日	出演:コンドルズ 構成・映像・振付:近藤良平	目標値	2,416
		世田谷パブリックシアター		実績値	2,342
4	世田谷アートタウン 三茶 de 大道芸	2019年10月19日～20日	出演:海外・国内のパフォーマー42 組	目標値	200,000
		三軒茶屋周辺、近隣商店街		実績値	200,000
5	世田谷アートタウン 海外招聘公演	2019年10月18日～20日	出演・スタッフ:カンパニー ルーブリ エ	目標値	1,020
		世田谷パブリックシアター		実績値	832
6	戯曲リーディング	2019年10月29日、31日	作品名:『アテネのタイモン』 演出:野村萬斎 出演:野村萬斎 他	目標値	510
		シアタートラム		実績値	409
7	爆笑寄席●てやん亭	2020年1月18日	出演:春風亭昇太、立川談春、 林家彦いち、春風亭昇りん	目標値	440
		世田谷パブリックシアター		実績値	588
8	森新太郎演出作品	2020年1月27日～2月16日	作品名:『メアリ・スチュアート』 出演:長谷川京子、シルビア・グラ ブ、三浦涼介、吉田栄作 他	目標値	10,166
		世田谷パブリックシアター		実績値	7,689
9	海外招聘ダンス公演	2020年3月19日～21日	ピーピング・トムの新作公演 『マザー』 ※コロナウイルスの影響により中止	目標値	900
		世田谷パブリックシアター		実績値	—
10	シアタートラム ネクスト・ジェネレーション	2019年12月4日～8日	作品名:『ミー・アット・ザ・ズー』 作・演出:山崎彬 出演:悪い芝居 他	目標値	700
		シアタートラム		実績値	1,312
11	舞台技術養成講座	2019年5月9日～12日	講師:熊谷明人、 柘植幸久、小笠原康雅 他	目標値	250
		世田谷パブリックシアター		実績値	158
12	移動劇場 @ホーム公演	2019年6月6日～18日	脚本・演出:ノゾエ征爾 出演:山本光洋、たにぐちいくこ、 高橋英希、ノゾエ征爾	目標値	950
		世田谷区内福祉施設等		実績値	1,050
13	せたがやこどもプロジェクト 子どもとおとなのための ◎読み聞かせ『お話の森』	2019年8月3日、4日	出演:ROLLY、片桐仁	目標値	1,000
		シアタートラム		実績値	940

14	せたがやこどもプロジェクト 『Jazz for Kids』	2019年8月17日～18日	出演:日野皓正、Dream Jazz Band 他	目標値	900
		世田谷パブリックシアター		実績値	793
15	地域の物語	2020年1月～3月	※コロナウイルスの影響により、発表会中止。無観客で記録映像撮影のみ実施。	目標値	620
		シアタートラム 他		実績値	28
16	こどものためのWS「世田谷パブリックシアター演劇部」 「夏休みワークショップ」	2019年7月～12月	小学生、中学生、高校生向けのワークショップを実施。	目標値	250
		世田谷パブリックシアター 稽古場 他		実績値	168
17	学校のためのWS 「ワークショップ巡回団」	2019年4月～2020年2月	※新型コロナウイルスの影響により3月のワークショップを中止。	目標値	4,500
		世田谷区内小中学校		実績値	7,830
18	観客育成プログラム 「舞台芸術のクリティック」	2019年7月～12月	演劇やダンスの批評を実践。	目標値	160
		世田谷文化生活情報センター		実績値	47
19	世田谷パブリックシアター 事業評価に関する調査	通年	外部機関による、劇場運営および事業評価のための調査を実施。	目標値	—
		—		実績値	—

(3) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	フリーステージ	2018年4月29日、30日、 5月4日、6日	出演:世田谷区民を中心とした 約65団体	目標値	2,300
		世田谷パブリックシアター・ シアタートラム		実績値	3,352
2	狂言劇場	2018年6月22日～24日、 6月29日～7月1日	演目:『附子』『鷹姫』『檜山節考』他 出演:野村万作、野村萬斎 他	目標値	2,250
		世田谷パブリックシアター		実績値	3,166
3	せたがやこどもプロジェクト ダンスワークショップ	2018年7月21日～ 8月20日	講師:井出茂太、目黒陽介、 斉藤美音子 他	目標値	80
		世田谷パブリックシアター 稽古場 他		実績値	38
4	世田谷アートタウン 三茶 de 大道芸	2018年10月20日、21日	出演:海外・国内のパフォーマー 48組	目標値	200,000
		三軒茶屋周辺、 近隣商店街		実績値	198,000
5	世田谷アートタウン 海外招聘公演	2018年10月19日～21日	出演・スタッフ:サーカス シルクール	目標値	1,060
		世田谷パブリックシアター		実績値	1,177
6	現代能楽集区	2018年10月5日～17日	演出:小野寺修司 出演:小林聡美、貫地谷しほり 他	目標値	2,300
		シアタートラム		実績値	3,001
7	森新太郎演出作品 『The Silver Tassie 銀杯』	2018年11月9日～11月25日	演出:森新太郎 出演:中山優馬、矢田悠祐 他	目標値	10,369
		世田谷パブリックシアター		実績値	6,340

8	戯曲リーディング	2018年12月3日～9日	作品名:『イザ』 演出:小山ゆうな	目標値	450
		シアタートラム	出演:北乃きい、篠山輝信	実績値	385
9	爆笑寄席●てやん亭	2019年1月18日	出演:林家木久扇、林家木久蔵 他	目標値	350
		世田谷パブリックシアター		実績値	630
10	栗山民也演出作品 『チャイメリカ』	2019年2月3日～24日	出演:田中圭、満島真之介、 倉科カナ、眞島秀和 他	目標値	8,800
		世田谷パブリックシアター		実績値	14,071
11	小川絵梨子演出作品 『熱帯樹』	2019年2月17日～3月8日	作:三島由紀夫 出演:林遣都、岡本玲、栗田桃子 他	目標値	3,400
		シアタートラム		実績値	4,976
12	海外招聘舞踊公演 ストップギャップ	2019年3月8日、9日	出演・スタッフ:ストップギャップ	目標値	600
		世田谷パブリックシアター		実績値	601
13	シアタートラム ネクスト・ジェネレーション	2018年11月29日～12月2日	『青いプロペラ』 作:南出謙吾 演出:森田あや	目標値	700
		シアタートラム	出演:らまのだ 他	実績値	904
14	中学生演劇支援	2018年10月～11月4日	世田谷区立中学校演劇部合同発表会を劇場スタッフが支援した。	目標値	300
		成城ホール 他		実績値	490
15	ダンス食堂	2019年1月15日、2月5日	講師:勝山康晴、平山素子	目標値	105
		世田谷文化生活情報センター		実績値	29
16	Technical Theatre Training Program 2018 舞台技術養成講座	2018年5月10日～13日、 10月26日～28日	講師:熊谷明人、 柘植幸久、小笠原康雅 他	目標値	250
		世田谷パブリックシアター		実績値	226
17	移動劇場 @ホーム公演	2018年4月20日～5月13日	脚本・演出:ノゾエ征爾 出演:山本光洋、たにぐちいくこ、 井本洋平、田中馨、ノゾエ征爾	目標値	900
		世田谷区内福祉施設等		実績値	850
18	せたがやこどもプロジェクト 子どもとおとなのための ◎読み聞かせ『お話の森』	2018年8月4日、5日	出演:ROLLY、片桐仁	目標値	720
		シアタートラム		実績値	954
19	せたがやこどもプロジェクト 『Jazz for Kids』	2018年8月18日、19日	出演:日野皓正、Dream Jazz Band 他	目標値	800
		世田谷パブリックシアター		実績値	825
20	地域の物語	2018年6月～2019年3月17日	地域住民とシンガポールのネセサリー ステージによる共同制作を行った。	目標値	75
		シアタートラム 他		実績値	342

2. 自己評価

(1) 妥当性 (平成30・31年度 2か年分)

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

世田谷パブリックシアターの事業は、公演事業、普及啓発事業、人材養成事業を3本の柱として、それぞれの事業のアウトプットからアウトカムを発現させ、さらにそのアウトカムが連関することで相乗効果を生み出すことを目的としている。各事業にはそれぞれの役割や機能があり、それらが最大限に発揮されるよう事業を計画している。

公演事業では、世田谷パブリックシアターが企画・制作する作品づくりを通して、時代を反映するオリジナリティあふれる舞台作品の創造、再演可能な新たなレパートリーとなる作品の拡充といったアウトカムの発現を目指している。平成30年度は芸術監督の野村萬斎が企画・監修を務める現代能楽集シリーズの第9弾となる『現代能楽集Ⅸ』(平成30年度 事業番号6)を実施、平成31年度は『チック』(平成31年度 事業番号2/平成29年度 助成対象事業)、『キネマと恋人』((平成28年度 助成対象事業)を再演し、アウトカムの発現に寄与する公演を行うことができた。

普及啓発事業では、演劇・ダンスのワークショップやレクチャーを主な手法として、劇場の中だけでなく積極的に劇場の外に出ていき、劇場の魅力や必要性をたくさんの人に伝え、地域の文化芸術の振興を促進する事業を展開している。地域の学校に出向く『ワークショップ巡回団』(平成31年度 事業番号17)は、各学校の要望や課題となっていることに合わせてワークショップの内容を組み立て、平成30年度は173回、延べ6,760人、平成31年度は219回、7,830人が参加し、アウトカムの発現に向けて着実に事業を実施している。

人材養成事業では技術者、観客を育てるレクチャーや講座の他、若手アーティスト、実演団体を制作面から上演までをサポートする事業も行い、全国各地で活躍する人材養成、文化芸術全体のレベルアップ、次世代の土壌形成に寄与することを目的としている。新しい才能を発掘し発表する機会を提供する『シアタートラム ネクスト・ジェネレーション』(平成30年度 事業番号13/平成31年度 事業番号10)では、平成30年度より応募資格を世田谷区近郊だけでなく関東全域に広げ、アウトカムの発現に資する環境も整備している。

この公演事業、普及啓発事業、人材養成事業を3本の柱とした考え方は、世田谷パブリックシアターのミッション、ビジョンを実現するための開場以来の方針であり、本助成対象活動においても、この方針に基づいて事業が計画され事業が進められている。公演事業の来場者が作品や劇場に更なる関心を持ち、普及啓発事業のワークショップや人材養成事業の講座に参加、または地域の学校や商店街で実施した事業をきっかけに劇場や舞台芸術に興味を持つといったように、各事業が相互に連関し、ひいてはそのアウトカム同士も相乗効果を生み出していく。例えば、『ダンス食堂』(平成30年度 事業番号15)では公演事業と普及啓発事業および人材養成事業を組み合わせ、公演の出演者によるレクチャー等の講座と実際に参加者が体を動かすワークショップをあわせて実施することで、総合的に舞台芸術や劇場の魅力を感じ取る機会を提供している。このような事業展開により、劇場の来場者や地域住民の様々なニーズに応えると同時に、新たなニーズを発掘することができる。

但し、平成31年度は新型コロナウイルスの影響により、一部事業の中止や実施内容の変更があったが、事業全体の主旨に大きな齟齬は生じることなく事業を実施することができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

本助成対象活動の各事業は、「有効性」「効率性」の項目にある通り、着実に目標を達成しながらも適切な事業費で実施している。この2項目から、事業規模または事業内容とアウトプットの費用対効果を得ることができていると考えられるが、普及啓発事業、人材養成事業は、事業単体で収益率を上げることが難しいため、助成金の活用が必要である。これらの事業は公演事業だけでは行き届かない部分への社会包摂の役割も担っており、誰もが参加しやすい低額の参加料を設定している。料金に関することは参加者の経済状況にも直接影響があるため、助成に値する経済的意義の一面であると認めることができる。

「創造性」の観点からは、世田谷パブリックシアター企画・制作の『チャイメリカ』（平成30年度 事業番号10）等の作品により、第27回読売演劇大賞において、服部基が最優秀スタッフ賞を受賞し、『The Silver Tassie 銀杯』（平成30年度 事業番号7）に出演した横田栄司が、第26回読売演劇大賞において、優秀男優賞を受賞した。これらの受賞は文化芸術の世界にとっての、文化的意義の表れである。また、「フリーステージ」（平成30年度 事業番号1／平成31年度 事業番号1）「世田谷アートタウン 三茶 de 大道芸」（平成30年度 事業番号4／平成31年度 事業番号4）「地域の物語」（平成30年度 事業番号20／平成31年度 事業番号15）といった世田谷パブリックシアター開場以来の地域住民の参加や近隣商店街との連携が重要な支えとなっている事業に、毎年度コンスタントに参加団体、参加者、来場者がいることは劇場の社会的意義を表すものであり、十分助成に値すると考えられる。

上記のような事業の価値判断について、より明確に把握するため、平成31年度から助成対象事業の一つとして、外部の調査機関による「世田谷パブリックシアター事業評価に関する調査」（平成31年度 事業番号19）を実施している。次年度以降は、この調査結果を基に事業計画の見直しを行い、さらには劇場のミッション、ビジョンを再考していく。

(2) 有効性 (平成30・31年度 2か年分)

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

公演事業：年間5～6作品、国際交流年間2作品以上、平均入場者率75%を指標として掲げた。

平成30年度は大型主催公演をとしては、6作品（内補助対象事業5作品）を制作し、国際交流上演企画として2作品（内補助対象事業1作品）を招聘し、目標を達成した。

平成31年度は6作品を制作したが、新型コロナウイルスの影響により、1作品は中止となってしまったため、上演したのは4作品（内補助対象事業2作品）であった。国際交流上演企画としては2作品（どちらも補助対象事業）を予定していたが、こちらも新型コロナウイルスの影響により、「海外招聘ダンス公演」（平成31年度事業番号9）が中止となってしまったため、「世田谷アートタウン海外招聘公演」（平成31年度事業番号5）のみの実施になってしまった。また、「地域の物語」では平成30年度・31年度ともに長期にわたって海外の参加者との交流をおこなう新しい形式の演劇ワークショップを試みた。

2か年に亘り新たなオリジナル作品を制作するとともに、小山ゆうな演出作品『チック』（平成31年度事業番号2）のように作品をブラッシュアップしての再演もあったことから、当初計画した「作品創造」「レパトリーの拡充」というアウトカムの発現に近づくことができた。

また、補助対象公演事業の平均入場者率は平成30年度は82.0%であり、目標を達成したが、平成31年度は74.1%に留まり目標に僅かに届かなかった。しかしながら、平成31年度の主催公演で実施したアンケートの集計では、20代以下の来場者は全体の20.8%という結果となり、およそ5人に1人が20代以下であることから、「次世代を担う若年層にも広く観劇の機会を提供する」という目標を達成できたと考えられる。

普及啓発事業：①ワークショップ・レクチャーは事業数40件、延べ参加者数12,000人以上、②地域団体参加型事業は60団体以上の参加、③地域と協働したフェスティバル型事業では来場者20万人を指標として掲げた。

①ワークショップ・レクチャーは平成30年度は事業数58件、延べ参加者数18,146人、平成31年度は事業数52件、延べ参加者数19,109人であった。②に該当する「フリーステージ」（平成30年度事業番号1/平成31年度事業番号1）は平成30年度は65団体、平成31年度は64団体が参加し、①②のいずれも目標を達成した。③にあたる「世田谷アートタウン 三茶 de 大道芸」（平成30年度事業番号4/平成31年度事業番号4）は平成30年度は来場者198,000人、平成31年度は来場者200,000人であった。平成30年度は目標に若干届かなかったが、その要因としては2日間の日程のうち1日目の夕刻に強い降雨があったことがある。

多様な事業展開により多数の参加者を得られたことで、アウトカム発現の基礎をつくることができた。

人材養成事業：全体で延べ500人の参加を指標として掲げた。

平成30年度は参加者延べ759人、平成31年度は参加者846人となり、目標を達成した。「舞台技術養成講座」（平成30年度事業番号16/平成31年度事業番号11）では平成30年度・31年度ともに東京都内だけでなく他県からの参加もあり、各地域で活躍する人材養成の一助となった。「舞台芸術のクリティック」（平成31年度事業番号18）では参加者が批評を実践することで、舞台芸術に対する視野を拡げ、能動的に鑑賞することができる観客を育成した。このように、多様な分野の人材を育てる事業を実施することにより、アウトカムが発現するための土壌を形成した。

(3) 効率性 (平成30・31年度 2か年分)

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

世田谷パブリックシアターでは事業期間の設定にあたり、助成の対象となる主催公演の他に、提携公演、貸館公演があり、平成29年12月に「世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針」を策定し、それぞれの年間の比率に基準値を設け劇場の年間スケジュールを決定している。各公演形態をバランスよく配置することで、主催公演だけではカバーできない作品をラインナップすることができている。それにより、劇用全体のプログラミングも十分に考慮し最も適切な事業期間を設定した上で、主催事業を実施している。また、事業の内容に合わせて適切な時期で実施をしている。例えば、助成対象事業の内、平成30年・31年度ともに実施した「フリーステージ」(平成30年度 事業番号1/平成31年度 事業番号1)は世田谷区民をはじめとした一般の方が参加しやすいように5月の連休に合わせ、同じく両年度に実施した「お話の森」(平成30年度 事業番号18/平成31年度 事業番号13)「Jazz for Kids」(平成30年度 事業番号19/平成31年度 事業番号14)は、子どもと家族を主な対象にした一連のプログラムである「せたがやこどもプロジェクト」として、子どもの夏休み期間である7月末から8月にかけて実施した。

主催公演、提携公演、貸館公演の比率を設定することで、事業運営に一定の方向性が示され、計画的に劇場全体のプログラムが進行し、効率的にアウトプットを出すことができる。アウトプットの一つとして設定している入場者数の実績値においては、助成対象事業の内、平成30年度は13事業、平成31年度は新型コロナウイルスの影響により中止や一部内容を変更した事業があったが、8事業が目標値を上回ることができた。目標値に達しなかった事業についても、目標値に近い実績値の事業が多いことから、アウトプットに対して、効率的な事業期間であったと考えられる。

事業費については、事業進行中も適宜収支の見直し等を行ったことで、平成30年度・31年度ともに当初予定していた助成対象事業全体の支出を超過することなく、助成金を活用しながら支出を抑えることができた。収益率の観点では、チケット売り上げを主な収入源とする公演事業に対し、低額の参加料かつ数十名の定員で実施しているワークショップ等の普及啓発事業や講座等の人材養成事業では収益率に大きく差が出ている。普及啓発事業および人材養成事業は、それらの事業の性質により参加料等で収益率を上げることは難しいが、観客育成や社会包摂の機能を有しており、公共劇場だけでなく広く社会にとっても必要な事業である。そのため、座席数600席の世田谷パブリックシアターで実施する公演の収入により、事業全体の収支のバランスを取っている。このことから、アウトプットに対して、公演事業による質の高い舞台芸術作品の提供とあわせて、劇場の事業全体として適切な事業費を計上し事業を実施していると考えられる。

(4) 創造性 (平成30・31年度 2か年分)

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている (と認められる) か。

当劇場は「公演事業」「普及啓発事業」「人材養成事業」を3本の柱として事業を計画しているが、それぞれの事業が連携するイメージとして、芸術監督である野村萬齋が提唱する「同心円」を掲げている。

野村萬齋は「世田谷を中心に地域を同心円的に拡がりがある、時代を写す鏡のような劇場にしたい」と述べており、当劇場は3本の柱のそれぞれの特徴を活かしつつ、区立の施設という特性から「地域」に軸足を置きながらも、その一方で「日本」を代表する作品を創造し、「世界」とつながるといふ、ダイナミックな公共劇場のイメージ・モデルを確立することを目指して事業を展開している。

第1の「地域」とのつながりを最重要視した事業としては、住民や近隣商店街と連携して企画・実施している「フリーステージ」(平成30年度 事業番号1/平成31年度 事業番号1)「世田谷アートタウン 三茶 de 大道芸」(平成30年度 事業番号4/平成31年度 事業番号4)がある。また、夏休み時期には、地域の家族連れを劇場に呼び込むために「せたがやこどもプロジェクト」と題して多様な事業を実施しており、恒例事業として定着し幅広い層の観客を得ている「お話の森」(平成30年度 事業番号18/平成31年度 事業番号13)や「Jazz for Kids」(平成30年度 事業番号19/平成31年度 事業番号14)は毎年高い人気を博している。これら事業は近隣住民に当劇場を「行きつけの劇場」として認識していただくための入り口の役割を果たしている。さらに、開場以来継続しているコミュニティ・シアター事業である「地域の物語」(平成30年度 事業番号20/平成31年度 事業番号15)は、介助・介護の問題やLGBTをはじめとする社会における多様性の問題など、地域住民にとって身近かつ緊急性の高いテーマをとりあげ、演劇を通じた市民社会の形成・活性化に寄与している。

第2の「日本」を代表する作品を創造するという観点では、芸術監督の野村萬齋のイニシアチブのもと、「地域性、同時代性、普遍性」「伝統演劇と現代演劇の融合」「レパートリーの創造」の3つを指針とした独創的な舞台芸術を創造発信している。公演事業においては、栗山民也演出作品『チャイメリカ』(平成30年度 事業番号10)、小川絵梨子演出作品『熱帯樹』(平成30年度 事業番号11)や小山ゆうな演出作品『チック』(平成31年度 事業番号2)、森新太郎演出作品『メアリ・スチュアート』(平成31年度 事業番号8)は、次項で述べるような大きな評価を得た。また、普及啓発事業においては、学校の長期休暇が終了する時期に生徒の自殺が増えるといふいわゆる「9月1日問題」に着目し、学校に行きたくない子どもたちの居場所として劇場を活用する試みをはじめするなど、時代の要請に応えた先駆的なプロジェクトに取り組むことで、同分野におけるパイオニアとしての存在感を示している。

第3の「世界」とつながる取り組みとしては、劇場開館以来、ロベール・ルパージュ、サイモン・マクバーニー、ジョセフ・ナジなど、世界的に高い評価を受けている演出家・振付家と強固な関係を築いてきた。近年も韓国との共同制作『ペール・ギュント』(2017年)をはじめとして演劇、ダンスの両分野での国際交流事業を推進してきている。こうした流れを引き継ぎ、平成30年度にはイギリスのダンスカンパニー、ストップギャップによる『エノーマスルーム』(平成30年度 事業番号12)や上海戯劇学院と共同主催した『風をおこした男—田漢伝』などの話題作を招聘した。また、ジャンルとしての現代サーカスに注目し、スウェーデンのサーカス・シルクールによる『LIMITS/リミッツ』(平成30年度 事業番号5)、フランスのカンパニー ルーブリエ/ラファエル・ボワテルによる『When Angels Fall/地上の天使たち』(平成31年度 事業番号5)など、継続的に紹介をおこなってきていることも特筆される。

さらに、こうした現代サーカス公演は秋の「世田谷アートタウン 三茶 de 大道芸」の関連事業として実施することで、地域の人々が海外の文化に触れ、新しい視野を開く機会として機能している。また、先述の「地域の物語」では、平成30年度からシンガポールとの交流を開始しており、住民同士が共通の問題について語り合い、そ

それぞれの「地域の物語」をともに紡いでいく試みをおこなっている。従来、演劇分野における国際共同作業といえば、プロのアーティストによる作品制作を指すことが専らであったが、地域の問題に取り組むことが実は国際理解に密接につながっているという、コミュニティ・シアターの分野での共同作業が持つ大きな可能性が示されることとなった。

このように、「世界」とつながるための試みが「地域」に還元され、それが大きなインパクトを与えうることが実証されてきていることは、劇場・音楽堂等が今後果たしていくべき役割を先取りしたモデルとして意義のあるものであると考えている。海外交流事業は、2020年になって深刻化した新型コロナウイルス問題の影響が特に大きく、平成31年度事業として計画していたベルギーのピーピング・トムによる『マザー』（平成31年度 事業番号9）も中止を余儀なくされたが、今後も粘り強く継続的に実施していきたいと考えている。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

公演事業については、さまざまなメディアに取り上げられ、劇評も多数掲載いただいている。例えば、平成30年度に実施した栗山民也演出作品『チャイメリカ』（平成30年度 事業番号10）は、同年を代表する作品として取り上げられ、「13年に発表されたこの作品は今もって射程が広く、19年の今現在においても考えるべき問題を多く含んでいる予言的な作品」と評された。また、平成31年度事業である森新太郎演出作品『メアリ・スチュアート』（平成31年度 事業番号8）は「ポピュリズムが台頭し民主主義のほころびが見える現代の寓話とも響く」「ハリー王子夫妻の王室引退やEU離脱で揺れる現代のイギリスについて史劇を通して見つめると、連綿と続く葛藤を感じずにはいられない」など、歴史劇としてのみとらえるのではなく、現在の状況への批判としてとらえる劇評が多く出された。このように、作品を通じて現在の社会を考え直すことが強く示唆されているのが特徴的であり、これは、演劇を通じて言説の場を生み出す「公共圏」としての役割を、当劇場が着実に果たしていることの重要な証左であると考えている。

また、平成30年度に実施したイギリスのダンスカンパニー、ストップギャップの『エノーマスルーム』（平成30年度 事業番号12）は、障害者も健常者も分け隔てなく舞台上に立って芸術性の高い作品を創造する、インクルーシブダンスの大きな可能性を示す作品として大きな注目を集めた。パラリンピックを控え、社会的多様性の共存に向けた関心が高まる中で、舞台芸術が先駆的な役割を果たしうることを指し示す事業となったと考える。

当劇場主催公演は各種演劇賞を受賞しており、平成30年度中の受賞としては、第26回 読売演劇賞において、『岸 リトラル』（平成29年度劇場・音楽堂等活性化事業 助成対象事業）が作品賞を受賞し、公共劇場では唯一の受賞となったほか、同作品に出演した岡本健一が同最優秀男優賞、森新太郎演出作品『The Silver Tassie 銀杯』（平成30年度 事業番号7）に出演した横田栄司、『シャンハイムーン』に出演した山崎一が男優賞を受賞した。また、『バリーターク』が第11回 小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞した。

また、平成31年度には、第27回読売演劇大賞において『チャイメリカ』等の照明によって服部基が最優秀スタッフ賞を受賞したほか、『終わりのない』での演技により、山田裕貴が第74回 文化庁芸術祭賞 演劇部門 関東参加公演の部で新人賞を受賞した。

普及啓発事業においては、先述した「9月1日問題」に取り組んだワークショップ事業がメディアの関心を集め、社会の中で公共劇場が果たしうる役割の可能性と重要性を強くアピールすることができた。また、シンガポールとの共同作業をおこなった「地域の物語」（平成30年度 事業番号20／平成31年度 事業番号15）においては、参加者たちが自らの経験や想いを共有し、ともに演劇作品として立ち上げていくという、当劇場が確立してきた方法論がシンガポールのコミュニティ・シアターに大きなインパクトを与えた。従来、シンガポールにおけるコミュニティ・シアターは、地域の問題に取材したプロの劇作家によって作られた台本を地域住民が演じることが基本形となってきたが、住民たちが自らの物語を語ることにより「保守的なシンガポール社会においては語られることのない、タブーとされることも多い問題にあえて取り組んでいることで、他のコミュニティシアター・プロジェクトとは一線を画している」「世田谷パブリックシアターとの共同作業によって高齢者の様々な物語を引き出したことで、愛すべき作品が生まれた」と評されるなど、参加者が自らの物語を語るという『地域の物語』の方法論が高く評価された。

(5) 持続性 (平成30・31年度 2か年分)

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する(と認められる)か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

持続的に事業を展開し、アウトカムの発現と定着を実現するため、組織体制の強化を推進している。平成29年12月に「世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針」、平成30年1月には「公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画」を策定した。職員の登用や昇任に関する制度を整備し、財団全体の基幹業務を担う総合職員と、制作者や技術者等の専門性の高い業務に従事する専門職員を配置した。平成30年度より、契約職員等の雇用形態から内部登用による専門職員への切替えを実施した。平成31年度より、専門職員の主任昇任を実施している。また、世田谷区の「外郭団体行動計画」に従い、PDCAサイクルを機能させるべく取り組んでいる。

ネットワークについては、当劇場で企画制作した作品のツアー公演を実施し、各地の劇場とのネットワークを構築するとともに、質の高い作品の観賞機会を提供している。その際、ネットワーク強化支援事業も活用している。平成30年度はKAAT 神奈川芸術劇場と共同制作を行い、近隣の劇場とのネットワーク構築も行っている。また、「劇場、音楽堂等連絡協議会」「全国公立文化施設協会」等に加盟し、情報交換や新たなネットワークの構築に努めている。

財政面においては、企業からの協賛金、公的機関からの助成金も獲得し、安定した経営を目指している。劇場事業全体および個別事業に対し協賛金を頂き、主催公演のチケットを一般料金の半額で提供する若年層に向けた割引サービス「U24(アンダー24)」等、各種サービスを展開している。

また、「世田谷パブリックシアター友の会」が組織されており、劇場開場当初から財団と協定により、相互協力及び支援を実施している。特別会員(年会費一口50,000円)、賛助会員(年会費一口10,000円)、一般会員(入会金500円、年会費3,000円)の3種類を設定し、特典として先行販売やチケットの割引等のサービスを提供している。このような会員組織は劇場の経営基盤の一部を担っている。

新たな取り組みとして、今後の中長期的な劇場運営を視野に入れ、世田谷パブリックシアター事業評価に関する調査(平成31年度 事業番号19)を実施している。劇場に関する調査研究において実績のある、株式会社ニッセイ基礎研究所に調査を委託し、調査項目の検討および精査から調査方法の策定までを劇場と同研究所で協働して行った。この調査は令和2年度も継続して実施する予定であり、最終的に得られた結果は、次期以降の事業計画の立案、ひいては劇場のミッション、ビジョンの再考に資するものとして活用していく。